

第 2 3 8 回 都市懇サロン レポ ー ト	『左近山団地パークプロジェクト』		
講 師	株式会社スタジオゲンクマガイ (STGK Inc.) 代表 熊谷 玄 さん	開 催 日	令和 2 年 02 月 13 日 (木) 18 : 00 ~ 20 : 00
講 師 プロフィール	Studio 崔在銀 (1995 年 ~ 2001 年) earthscape inc. (2002 年 ~ 2008 年) を経て 2009 年 3 月より株式会社スタジオゲンクマガイ (STGK Inc.) 代表。愛知県立芸術大学 (2011 年 ~), 東京電機大学 (2017 年 ~), 千葉大学 (2018 年 ~) にて非常勤講師を務める。		
お話の概要	<p>○左近山団地の概要 左近山団地は昭和 43 年、神奈川県横浜市旭区に建てられた。築後 46 年が経過し、団地の老朽化、高齢化、空き家が元より課題となっていたが、人口流出により、10 年後には人口が半減するとの試算を受け、左近山団地中央地区管理組合が横浜市に団地再生アドバイザーの派遣を要請したことが本プロジェクトの発端となる。</p> <p>○左近山団地における活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国公募のオープンコンペへの参加 ・ワークショップを通じて広場に対する住民の要望を調査 ・プレーヤーとして自らも参加するため有志団体を結成 ・地域とより密接に関わることを目的とし PTA 会長に就任 ・イベントの開催 (左近山アートフェスティバル等) 及びアートカフェの運営 		
意見交換 の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・左近山団地でしかできないことはあるか。 ⇒ない。また本プロジェクトはそれを目的にしていない。ただ住民の特徴として当時団地に住むということはステータスだったことから文化度の高い人が多い。 ・左近山団地における人口の将来ビジョンはどのようになると想定されているか。 ⇒必ずしも定住である必要はないと考えているため、生活環境を含め現状維持を目標としている。一番危惧しているのはスラム化による住環境の変化である。 ・他地区において同様のプロジェクトを行うことを想定した場合プレーヤーとして参加することが重要となるか。 ⇒左近山団地においてプレーヤーとして参加することは重要であったと考えるが、他地区への応用・流用は難しいだろう。 		
記録者の ひとこと	<p>異なる目的の異なる世代の人が気兼ねなく利用できる広場の実現、また収支はイベント内で完結させる仕組みづくりなど同業者として非常に参考となった。</p> <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員 三宅 敦子》</p>		